



2019年5月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所 / (公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区新町1-3-8
 Tel 096-353-6397(代)



ユースリーダー／大学1年生
 元水泳教室・体育英語幼児園在籍生 田尻 実夢さん

高校生になったらYMCAのリーダーになる！

YMCAでは、指導者のことを「先生」ではなく「リーダー」と呼びます。リーダーという呼び方には「子どもを導きつつ、指導者自身も子どもとともに成長する」という意味と願いが込められています。

この4月、熊本市内にある大学の教育系の学部に進学した田尻実夢さん。彼女が、YMCAで水泳教室やキャンプのリーダーになったのは高校1年生の時、中学を卒業してすぐのことでした。小学4年生の頃に書いた文集にはこう書いてあります。「高校生になったらYMCAのリーダーになります」。実夢さんにとって、これは「宣言」だったと言います。同級生や家族にもこのことを伝え、目標にしてみました。高校進学後すぐにリーダーになったのは、実夢さんにとって有言実行そのものだったのです。

実夢さんの母は、ベテランリーダーの「こまリーダー」。よちよち歩きの頃から、実夢さんは母親に連れられてYMCAに通っていました。自身も最初は水泳のメンバー、つまり水泳をリーダーから教わる子どもの一人でした。母親から直接指導を受けたことはありませんが、幼い頃から、視線の先には、母親の、そして子どもたちや、時に若手リーダーを育成する母、「こまリーダー」の背中があったのです。

「リーダー」の先に描く未来

真剣に子どもと向き合う

家事・育児・YMCAでのリーダーとしての仕事。実夢さんの目に映る母はいつもひたむきな姿勢だったと言います。「夢がかないますように」との思いで名前を考えてくれたのも母でした。反抗期もあったけれど、いつしか母を尊敬のまなざしで見えるようになったのだと話します。

高校生リーダーはアシスタント的な役割。もちろん、完全無償でアルバイト代などは一切ありません。実夢さんのように高校3年間ずっとYMCAで水泳やキャンプのリーダーを務めた、というケースはごく稀なことです。

「大学生になってやっとグループリーダーになれるんです」と語る彼女の表情には笑みが。自分の考えを水泳の指導計画にも反映できると期待を抱きます。「子ども一人ひとり」という言葉が実夢さん自身のキーワード。「それぞれ個性ある子どもたち一人ひとりに心を寄せる水泳指導やキャンプリーダー」。これが、18歳の実夢さんが一貫して持っている理想のYMCAリーダー像です。

実夢さんについて、周囲の評判は——。「寄り添うタイプのリーダー。子どもの個性やスキルに合った指導を考えて、じっくり子どもと向き合います。キャンプでもついひとりぼっちになってしまう子どもにすぐに気づいて関係を築いていくのが実夢さんのいいところ」。



夢を、目標に

友人からよく「まじめ」だと言われることがあるという実夢さん。「自分ではあまり思わないけど、そう言われることが多いですね。初対面の人と打ち解けるのに時間がかかるタイプ」と冷静に自己分析も。

実夢さんはYMCAの発達障がい児支援クラスでもアシスタントリーダーの役割を担ってきました。これからも水泳指導・キャンプだけでなく、この分野のボランティアも続けるつもりです。

「発達障がいやその傾向のある子どもたちの気持ちにもっと近づきたい。そのための専門的な学びを大学とYMCAで深めたいです。正しい知識を身につけることで、障がいがある子どもも、その子どもの個性として受け止められるようになると思うから」。

最後に、大学卒業後の夢について尋ねると「ぜったい、小学校の先生になります!」との答えが。その目には、芯の強さと夢に向かう行動力の強さがはっきりと表れていました。大学入学を機に、夢が明確な目標に変わりました。

YMCAは「すべての人々が共に活動することができる」団体。高校1年生から自ら行動し、大学生になった今も目標に向かって前に進む実夢さんです。

Pickup

新たな門出
 YMCA学院入学式



年長児がお祝い
 熊本五福幼稚園
 入園式

地球のために行動を
 アースウィークくまもと
 ノーマイカーデーパレード



Information 行こう 見よう 深めよう

5月24日 Friday

熊本YMCA 会員大会



2019年度熊本YMCA会員大会を下記のとおり開催します。多くの会員の皆様にご出席いただきますようお願いいたします。

回5月24日(金) 18:30~21:00
 場 熊本YMCA中央センター
 圃 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397

礼拝 18:30~19:00

奨励 日本福音ルーテル大江教会 立野泰博さん

講演会 19:00~20:00

講師 田中治彦さん(上智大学グローバルコンサーン研究所員 立教大学ESD研究所員 認定NPO法人開発教育協会理事)

テーマ「SDGsとYMCA運動」

※翌25日(土)10時から、田中治彦さんによるワークショップ「SDGsと2030年の世界」も開催(要申込)

表彰式 20:00~20:30

因 YMCAユースボランティア委嘱/会員永年在籍者表彰/特別表彰

定期総会 20:30~21:00

因 2018年度事業報告・決算報告・監査報告/2019年度事業計画・予算報告/常議員選任の件



6月7日 Friday

未来を担う子どもたちのために 第17回チャリティボウリング大会



様々な事情を抱える子どもたちを支援しようと、毎年開催しているボウリング大会。楽しみながらボランティアできると大好評の社会貢献プログラムです。

回6月7日(金) 18:00~受付開始 18:30~開会式
 場 ナムコワンダーボウル南熊本店
 圃 1チーム(4名)8,000円 ※シューズレンタル代は各自負担
 圃 24チーム
 圃 YMCAフィランソロピー協会事務局(熊本YMCA)
 Tel 096-353-6397



5月・6月

愛されて12年 歌声広場わいわい



団塊の世代が集う場所を作ろうと2007年に誕生した歌声広場わいわい。現在、4カ所のセンターで、月に1回、懐かしの歌を歌っています。参加費は各回500円。ご友人・ご家族お誘いあわせてお出かけください。

東部センター

回原則第1水曜日 19:00~20:30
 5・6月スケジュール 5月13日(月) ※第2月曜、6月5日(水)
 圃 Tel 096-382-6661

むさしセンター

回原則第3金曜日 13:30~15:00
 5・6月スケジュール 5月17日(金)、6月21日(金)
 圃 Tel 096-248-6334

中央センター

回原則第2水曜日 15:00~16:30
 5・6月スケジュール 5月15日(水) ※第3水曜、6月12日(水)
 圃 Tel 096-353-6391

みなみセンター

回原則第4水曜日 10:45~12:15
 5・6月スケジュール 5月22日(水)、6月26日(水)
 圃 Tel 096-378-9370



大学生・専門学校生が活躍 YMCAユースボランティア募集



YMCAには、国際交流や国際協力、子どもと関わる活動、スポーツ、キャンプ、健康づくりなどのボランティア活動の機会がたくさんあります。新しい経験や出会いを通して自分自身の成長も目指してみませんか。

圃 1~3 最寄りのセンターにお問い合わせください。
 圃 4 中央センター Tel 096-353-6391



1 こどもスポーツスクール

因 幼児・小学生対象のスポーツスクールでの指導補助
 圃 中央・みなみ・ながみね・むさしセンター
 回 平日・土曜日の3~5時間程度 ※給与支給あり

3 成人フィットネス

因 フィットネス施設でのトレーニングサポートなど
 圃 みなみ・ながみね・むさしセンター
 時間 平日9:00~23:00の3~5時間程度
 土・日曜日も歓迎 ※給与支給あり

2 野外活動・キャンプ

因 子どもたちの自主性を育みながら、安全を見守るリーダー活動
 回 毎月日曜日(日帰り)もしくは土・日曜日(宿泊キャンプ)、夏休み・冬休みなどのシーズンキャンプ

4 国際ユースボランティア

因 留学生との交流や海外ワークキャンプ、ボランティア活動など
 圃 中央センター(熊本市中央区新町)
 回 活動日時など、詳しくはお問合せください

R | E | P | O | R | T

[3月13日⇒ 4月15日]

地域活動

“近助”でつなごう 大切ないのち 防災まつり

3月17日(日)、ながみねファミリーセンターで防災まつり2019を開催しました。託麻南校区8町内自治会・自主防災クラブとの共催で約250名が参加。第9回の今回は、ご近所で互いに助け合う「互近助」を実現することを目指して、地域の皆さんや近隣事業所、関係団体と準備を進めました。防災についての展示や緊急車両の見学、段ボールベッドの避難所体験、新聞スリッパ作り、心肺蘇生の体験などをスタンプラリー形式で実施。新たな協力企業・団体も加わり、車いすの試乗、避難介助体験も行いまし

た。防災クラブ部長の池田一之輔さんから地域の防犯・防災活動についてメッセージが語られ、子育て世代の皆さんも刺激を受けたようです。次の世代へ伝承していくことの大切さを感じました。

防災には、日頃からの意識づけと備えによる減災、そして人と人との助け合いが重要です。来年は節目となる第10回目。今後も絆を大切にして、安心安全で人々がイキイキと暮らすことのできる街づくりに、地域の皆さんと共に取り組んでいきます。

職員 丸目陽子



国際交流

東ティモール 駐日特命全権大使が来熊

2002年に独立した東ティモール民主共和国は、まだ社会基盤が脆弱なため、様々な課題を抱えています。現地のYMCAは、サッカー教室や幼稚園、日本語教室、職業訓練、コーヒー栽培など、人材育成や社会の発展のために活動。熊本YMCAは、資金の援助、スタッフやユースの研修、日本から若者を派遣するワークキャンプなどを行っています。

これらの活動に謝意を表したいと、3月13日(水)、駐日大使のフィロメノ・アレシヨ・ダ・クルスさんが熊本YMCAを訪問。これまでの活動へのお礼

とともに、政府とYMCAの協働の可能性について語られました。その後も14日にかけて、熊本県知事、熊本副市長、合志市市長を表敬訪問。また、YMCA学院で学ぶ留学生との懇談、ルーテル学院高校生との交流、企業視察などを行いました。みなみセンターのぶどうの木幼稚園の訪問では突然のゲストに園児たちが大喜び。普段がんばっている英語プログラムの成果を発揮できたようです。

今後人も人との交流を通して平和を創り出す取り組みを行っていきます。 職員 中村賢次郎



研修

相手を思う姿勢を学ぶ 新入社員ボランティア研修

4月3日(水)と15日(月)の両日、YMCAフィランソロピー協会主催の第24回新入社員ボランティア入門講座を開催しました。YMCA中央センターを会場に、2日間で7企業・団体48名が受講。食事介助や車いすの操作を体験しました。

指導を担当したのは、自らも障がい者で、車いすで生活を送るNPO法人ヒューマンネットワーク熊本の職員。食事介助では、無言での介助やアイコンタクトをとるなどいくつかの条件のもと、参加者同士がペアになって食事を食べさせ合いました。車い

す講習では、屋外に出て車いすに乗ったり押したりしながら、段差の乗り越えや階段の昇り降りにも挑戦。「小さなことにも気づくことが大切。相手の立場に立って行動できるようにしたい」「困っている人がいた時に、すぐに行動できる人間でありたい」「周囲への思いやりの気持ちであふれた社会にしていきたい」などの感想が寄せられました。コミュニケーションの大切さや立場が変わることで生じる感じ方の違いなどを実感する機会となりました。

職員 原美幸



岡総主事の タラント Vol.58

新しい生き方

今年も自転車や徒歩、公共交通機関による通勤を促す「ノーマイカー通勤デー・パレード」が開催されました。地球環境の保全を呼び掛ける「アースウィークくまもと」の一環で毎年実施されているものです。

1990年に熊本のアースウィーク(アースデー)の取り組みが始まった当初は、パネル展など

による啓発を中心に活動が展開されてきました。その後、徐々に市民・団体・企業を巻き込み、市民運動として広がりました。YMCAも実行委員として活動の一端を担いつつ、熊本YMCAの使命の一つである「地球環境の保全」を掲げ、地域センターの運営委員会を中心に、様々な活動を展開。会員の皆さんが、「自分にできること」を考えるきっかけになったと思います。

活動のスタートから30年。県や市、環境省などの連携がある中、NPOなど横のつながりが薄れてきたことも確かです。ところが、地球環境の課題は世界規模で深刻化しています。2015年に国連で、持続可能な開発目標である「SDGs」が採択されました。2030年までの世界的な優先課題と私たちのあるべき姿を定めた

17の目標の中にも、エネルギー問題、気候変動、海や陸の豊かさなどの環境に関する課題が盛り込まれています。環境への配慮はもちろん、SDGsをもとに、人権、平和など、「誰一人取り残さない」という理念をもって課題に取り組む国、自治体、企業が増えています。この運動に連なることで、YMCAが大切にしてきたすべての人が共に生きていける社会の実現への取り組みを、深化していきたいと思えます。

5月24日(金)に開催する2019年度熊本YMCA会員大会では、元上智大学教授の田中治彦さんをお招きし、「SDGsとYMCA運動」と題して基調講演を行っていただきます。新たな時代、未来に希望を描く社会を目指していきましょう。

t a l a n t o n

Snap **スプリングキャンプ2019**

今年もたくさん子どもたちが春のキャンプに参加しました。



熊本地震復興支援

熊本地震から3年が経過しました。熊本YMCAは、益城町の木山仮設団地の地域支え合いセンターを運営するほか、阿蘇地域でのボランティア活動を行うなど支援活動を続けています。

3月21日(木・祝)には、木山仮設団地と御船町スポーツセンターで地域交流を開催。多くの協力団体の出店、ステージ発表が行われました。会場では地域の皆さんが集い、再会を喜ぶ姿が見られました。



子どもたちに大人気のわたがしコーナー (御船町)

熊本地震復興支援募金

皆様からの募金は仮設団地における見守りとコミュニティづくり、子どもたちのケアなどの活動に用います。

募金方法

- ①お近くのYMCAに直接お持ちいただくか、指定の銀行口座にお振込みください。
- ②Yahoo! ネット募金ではクレジットカードやTポイントでのご寄付が可能です。

お振込み先等の詳細は、Webサイトをご覧ください。

お問合せ

熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



罪の赦し

ヨハネの手紙一 4章10節
わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

人は自分の罪がゆるされる時、安堵し、安心します。反対に罪がゆるされず、解決できていないなら、その罪によって苦しむことになりま。聖書には「正しい者はいない。一人もいない。悟る者もなく、神を探し求める者もない。皆迷い、だれもかれも役に立たない者となった。善を行う者はいない。ただの一人もいない。」(ローマの信徒への手紙3章10〜12節)と

あります。主なる神の前に、生まれながらの人間はだれ一人正しいと言える人はいません。すべての人間が罪人なのです。ですから、イエス・キリストが、この世に救い主として来られた意味があるのです。

イエス・キリストは、私たち人間の罪をすべて背負って、身代わりとなり、十字架にかかって死なれましたが、三日後に復活され、今も生きておられます。そのことによって神の前における私たちの罪が全て赦され、主イエス・キリストを救い主と信じる人は、神の前に罪がないと認められて、神の子どもとして受け入れてくださいます。これは神の愛です。

この世を生きている中で、主を信じ、主に祈る時、その祈りを神は聞いていてくださり、答えてくださいます。神が共にいてくださるのなら、厳しいこの世の中も、主に守られ、また主に導かれて天の御国を目指して歩むことができます。

わたしと聖句



日本バプテリスト連盟人吉キリスト教会
永淵一隆

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡成也 編集人／因幡亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。